

社会資本総合整備計画（地域住宅計画）の事後評価報告シート

1. 事後評価を実施した社会資本総合整備計画（地域住宅計画）	
①計画の名称	新見市地域住宅等整備計画
②都道府県名	岡山県
③計画作成主体	新見市
④計画期間	平成28年度～令和2年度
⑤計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・狭小で老朽化した住宅の需要動向を見極めながら、土地の高度利用や生活環境の改善を図り、より効率的な計画的整備や高齢者や身体障害者をはじめ、すべての人にやさしいまちづくりを目指し、市民と行政との協働により、個性的で質の高い住まいづくりを推進する住宅施策に取り組む。 ・「特定空家」に対する指導が行える体制づくりのために、市内全域における空家調査を実施するとともに、空家の利活用のためのデータベースを構築する。
2. 事後評価の内容	
⑥実施体制・時期	新見市において評価を実施・令和3年4月
⑦事後評価の結果	<p>指標①：「市営住宅の長寿命化計画の達成率の増加」 定 義：市内の市営住宅（中層耐火住宅）のうち屋根を改修した割合 評価方法：（屋根が改修された中層耐火住宅棟数）／（中層耐火住宅棟数） 結 果：従前値：0％（H28年度当初）⇒目標値：100％（R2年度末） ⇒実績値：75％ 結果の分析：屋根の劣化が少なかった、または屋根の劣化が少なく屋根以外の対象部位の劣化状況から、屋根以外の箇所の改修も含めて一体的に施工した方が効率的と判断した住宅については施工を先送りしたため。</p> <p>指標②：「市営住宅のバリアフリー化率の増加」 定 義：手すりが設置された市営住宅の割合 評価方法：（手すりが設置された戸数）／（全戸数） 結 果：従前値：0％（H28年度当初）⇒目標値：30％（R2年度末） ⇒実績値：8.4％ 結果の分析：限られた財源の中、老朽化対策等を優先した結果、バリアフリー化の推進については、予定よりも進捗が遅れることとなった。</p> <p>指標③：「空家調査の実施率の増加」 定 義：空家を特定するための現地調査を実施した割合 評価方法：現地調査を実施した戸数 結 果：従前値：0％（H28年度当初）⇒目標値：100％（R2年度末） ⇒実績値：100％ 結果の分析：計画どおりに実施できた。</p>
⑧結果の公表方法	新見市ホームページで公表
3. 事後評価の結果を踏まえた今後の住宅施策の取組への反映等	
⑨今後の住宅施策の取組への反映	「新見市住生活基本計画」及び「新見市営住宅長寿命化計画」に即した維持管理を行い、必要に応じて計画の点検・見直しを行うとともに、今後もバリアフリー化等居住者のニーズに沿った整備を推進していくように努める。
⑩その他	

※この事後評価は別添の社会資本総合整備計画（地域住宅計画）について行ったものである。